



第 47 期

# 定時株主総会 参考資料

2018 General meeting of shareholders

**エヌアイシ・オートテック株式会社**

代表取締役会長 CEO 西川 浩司

2018年6月23日

<b>1</b>	連結経営指標等の推移	3
<b>2</b>	当社経営指標等の推移	4
<b>3</b>	業績推移 — 売上高・経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益 —	5
<b>4</b>	業績推移 — 純資産/総資産・1株当たり純資産額・1株当たり当期純利益 —	6
<b>5</b>	セグメント別売上高の状況	7
<b>6</b>	連結財務諸表	8
<b>7</b>	財政状態の分析	9
<b>8</b>	経営成績の分析	10
<b>9</b>	会社概要	11
<b>10</b>	沿革	12
<b>11</b>	3つの事業部門	13
<b>12</b>	国内事業拠点	14
<b>13</b>	倍増計画	15
	倍増計画( ~ )	16
<b>14</b>	新たな取り組み	17
	新たな取り組み(ロボット架台)	18



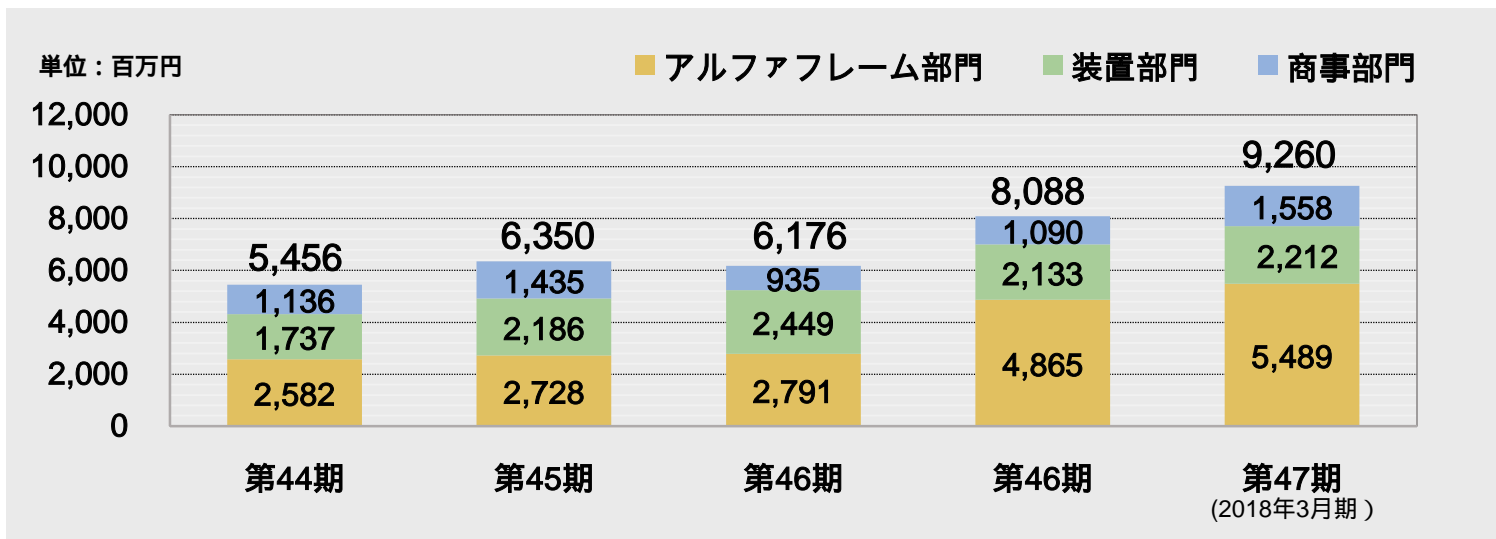
回次		第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月		2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
売上高	(千円)			6,176,962	8,088,753	9,260,778
経常利益	(千円)			565,737	833,708	1,032,716
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)			363,630	551,582	695,663
包括利益	(千円)			284,980	619,504	725,520
純資産額	(千円)			3,663,026	4,157,147	4,631,834
総資産額	(千円)			5,690,837	7,214,958	8,386,222
1株当たり純資産額	(円)			672.26	762.95	850.09
1株当たり当期純利益	(円)			66.73	101.23	127.67
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)			—	—	—
自己資本比率	(%)			64.4	57.6	55.2
自己資本利益率	(%)			10.2	14.1	15.8
株価収益率	(倍)			10.3	18.9	12.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)			240,758	278,714	556,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)			141,747	203,015	693,210
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)			108,282	25,079	371,830
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)			252,781	308,801	545,329
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	[ ]	[ ]	180〔30〕	190〔46〕	223〔47〕

- (注) 1. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。  
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 4. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

回次		第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月		2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
売上高	(千円)	5,456,494	6,350,253	6,194,894	8,081,448	9,259,861
経常利益	(千円)	344,766	455,693	605,741	880,864	1,088,010
当期純利益	(千円)	205,628	296,406	363,879	598,595	685,821
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	156,100	156,100	156,100	156,100	156,100
発行済株式総数	(株)	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
純資産額	(千円)	3,268,205	3,487,529	3,666,953	4,194,507	4,653,576
総資産額	(千円)	5,271,187	5,431,162	5,691,867	7,248,550	8,392,840
1株当たり純資産額	(円)	599.79	640.05	672.98	769.81	854.08
1株当たり配当額	(円)	14	20	23	30	39
1株当たり当期純利益	(円)	37.73	54.39	66.78	109.85	125.87
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	62.0	64.2	64.4	57.9	55.4
自己資本利益率	(%)	6.5	8.8	10.2	15.2	15.5
株価収益率	(倍)	8.3	11.3	10.2	17.4	13.0
配当性向	(%)	37.1	36.8	34.4	27.3	31.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	27,574	172,486	—	—	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	223,565	262,148	—	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	48,669	76,333	—	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	428,239	262,243	—	—	—
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	158〔21〕	161〔20〕	175〔30〕	183〔46〕	214〔47〕

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため記載しておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 4. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
 5. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、第45期以降の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

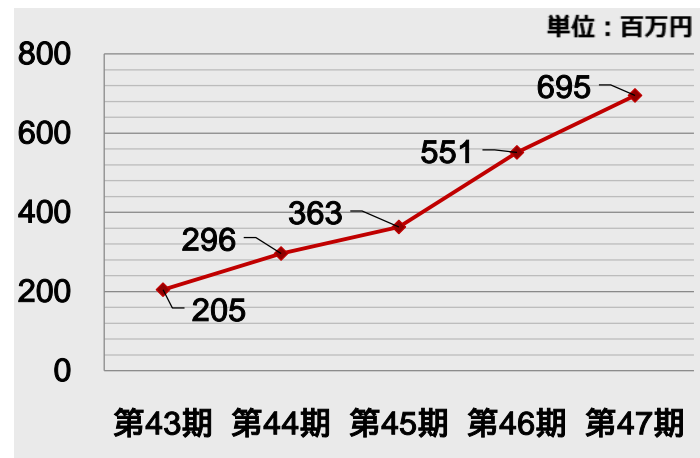
## 売上高



## 経常利益

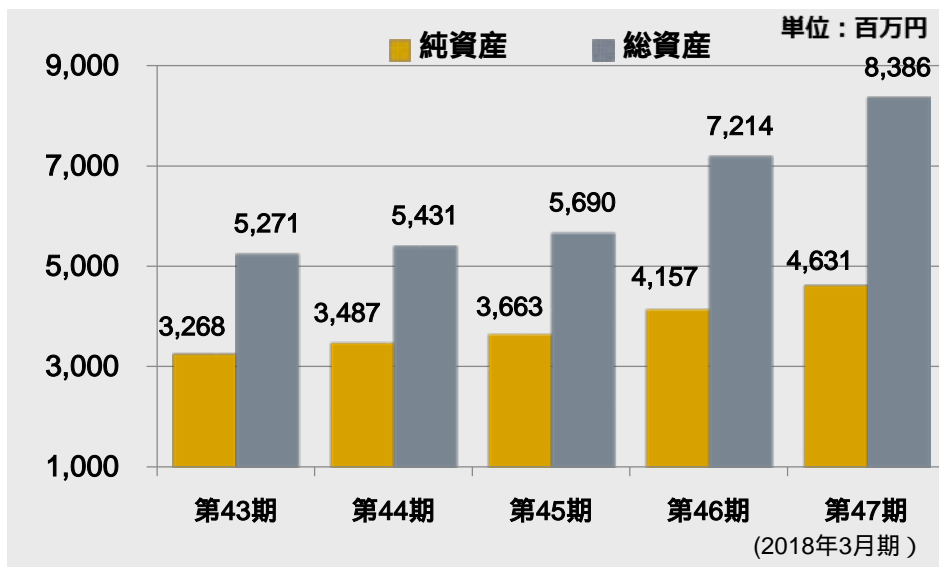


## 当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)

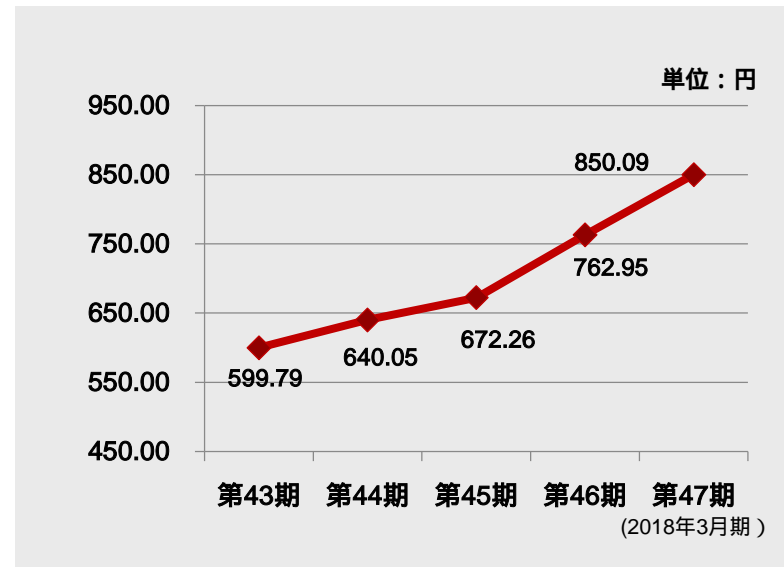


(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

## 純資産額/総資産額 (注)



## 1株当たり純資産額 (注)



## 財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は、前年度末と比べ1,171百万円増加し、8,386百万円となり、負債合計は、前年度末と比べ696百万円増加し、3,754百万円となりました。正味運転資本（流動資産から流動負債を控除した金額）は2,725百万円であり、流動比率は196.3%であります。なお、当連結会計年度末の純資産合計は、前年度末と比べ474百万円増加し、4,631百万円となりました。自己資本比率は55.2%となっております。

(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

## 1株当たり当期純利益 (注)



### アルファフレーム部門

アルファフレーム部門におきましては、設計サポートサービス「カクチャ™」及び組立作業の省力化を可能とする「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。

これによって、一般顧客向けの販売が好調に推移し、特に「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用した案件の売上高が大きく伸びました。また、FPD製造設備関連企業及び半導体製造設備業界からの受注も継続して順調に推移いたしました。

この結果、当部門の売上高は5,489百万円（前年同期比112.8%）となりました。

### 装置部門

装置部門におきましては、引き続き当社グループの技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。

自動車部品製造企業向け設備として、洗浄装置及び検査装置を中心に継続的な受注を確保いたしました。また、FPD業界向けクリーンブース案件については、当初の予測より好調に推移し、売上高が伸びました。

この結果、当部門の売上高は2,212百万円（前年同期比103.7%）となりました。

### 商事部門

商事部門におきましては、主要顧客より安定的に工業用砥石、油脂類等の消耗品関係の受注を確保いたしました。また、機械設備関係では、複数の主要顧客より大口案件を受注し、売上高が大幅に伸びました。

この結果、当部門の売上高は1,558百万円（前年同期比142.9%）となりました。

## 連結貸借対照表

(2018年3月31日現在)

科目	金額(千円)
<b>資産の部</b>	
流動資産	5,555,450
固定資産	2,830,772
有形固定資産	2,074,749
無形固定資産	47,076
投資その他の資産	708,946
資産合計	8,386,222
<b>負債の部</b>	
流動負債	2,829,656
固定負債	924,731
負債合計	3,754,388
<b>純資産の部</b>	
株主資本	4,494,186
資本金	156,100
資本剰余金	145,608
利益剰余金	4,227,201
自己株式	34,723
その他の包括利益累計額	137,237
その他有価証券評価差額金	120,618
為替換算調整勘定	16,618
非支配株主持分	410
純資産合計	4,631,834
負債及び純資産合計	8,386,222

## 連結損益計算書

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

科目	金額(千円)
売上高	9,260,778
売上原価	6,999,390
売上総利益	2,261,388
販売費及び一般管理費	1,232,469
営業利益	1,028,918
営業外収益	15,486
営業外費用	11,689
経常利益	1,032,716
税金等調整前当期純利益	1,032,716
法人税等	337,129
当期純利益	695,587
非支配株主に帰属する当期純利益	76
親会社株主に帰属する当期純利益	695,663



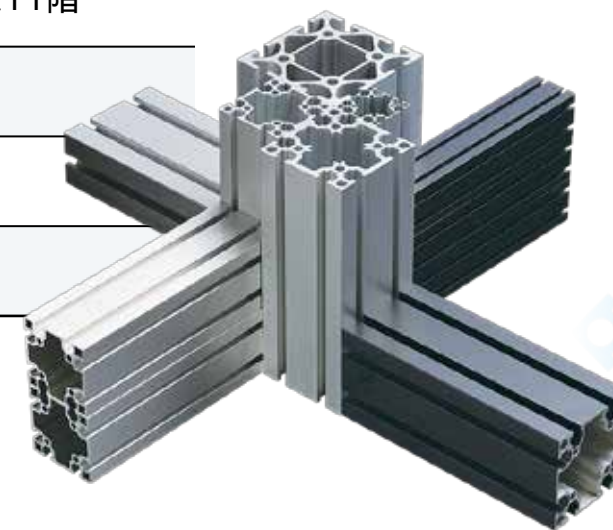
<p><b>流 動 資 産</b></p>	<p>当連結会計年度末における流動資産の残高は、前年度末と比べ883百万円増加し、5,555百万円となりました。これは主に、現金及び預金が236百万円、電子記録債権が1,067百万円、仕掛品が422百万円、それぞれ増加した一方で、受取手形及び売掛金が1,077百万円減少したことなどによります。</p>
<p><b>固 定 資 産</b></p>	<p>当連結会計年度末における固定資産の残高は、前年度末と比べ287百万円増加し、2,830百万円となりました。これは主に、新たに開設した立山事業所の取得などにより建物および構築物（純額）が676百万円増加した一方で、土地が128百万円、建設仮勘定が272百万円、それぞれ減少したことなどによります。</p>
<p><b>流 動 負 債</b></p>	<p>当連結会計年度末における流動負債の残高は、前年度末と比べ126百万円増加し、2,829百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が375百万円、電子記録債務が110百万円、それぞれ増加した一方で、設備関係手形が270百万円、未払法人税等が32百万円、それぞれ減少したことなどによります。</p>
<p><b>固 定 負 債</b></p>	<p>当連結会計年度末における固定負債の残高は、前年度末と比べ570百万円増加し、924百万円となりました。これは主に、立山事業所の建設資金調達により長期借入金が増加したことなどによります。</p>
<p><b>純 資 産</b></p>	<p>当連結会計年度末における純資産は、前年度末と比べ474百万円増加し、4,631百万円となりました。これは主に、配当金の支払い250百万円があったものの、親会社株主に帰属する当期純利益の計上695百万円があったことにより、利益剰余金が445百万円増加したことや、その他有価証券評価差額金の増加24百万円があったことなどによります。</p>

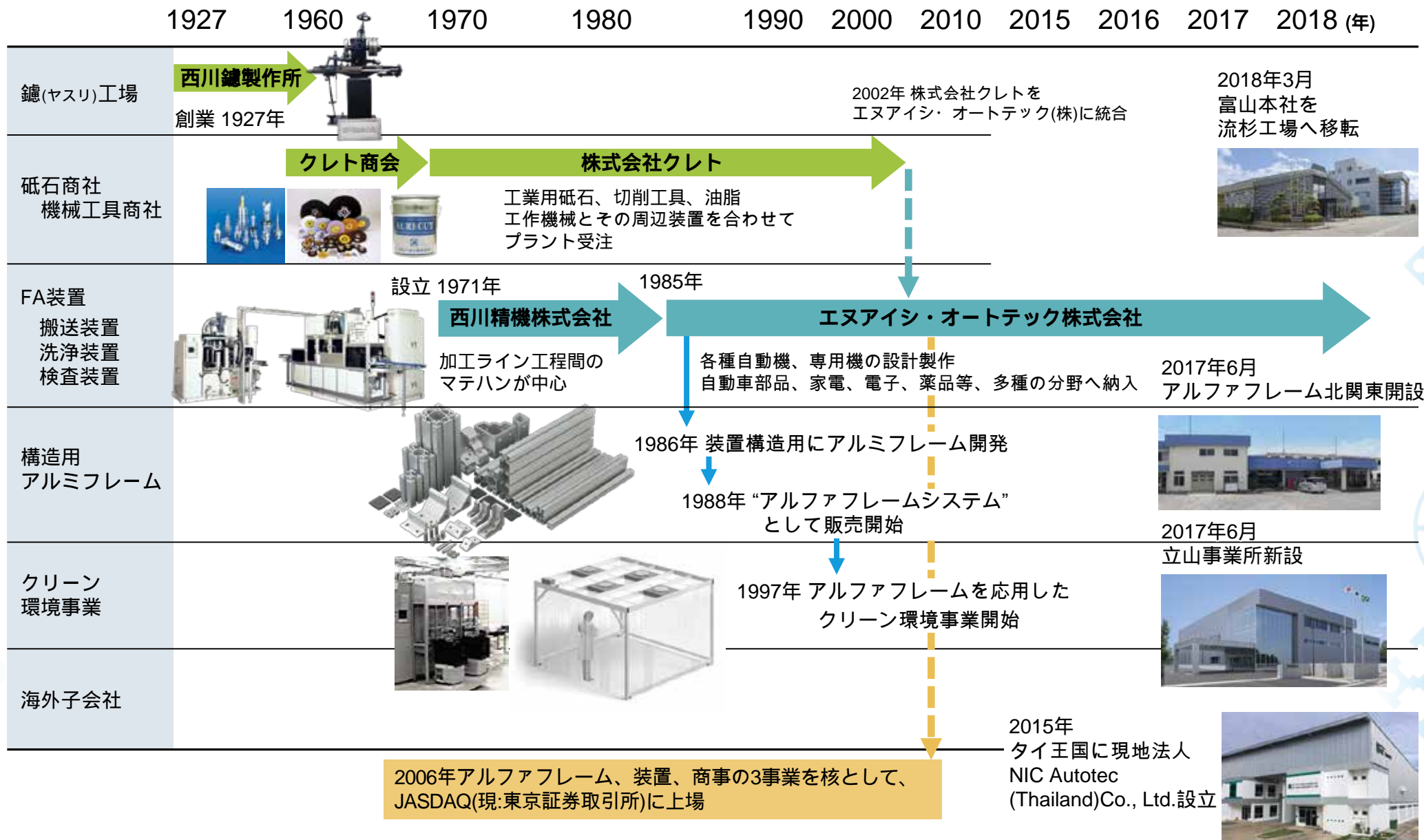
<p style="text-align: center;"><b>売 上 高</b></p>	<p>当連結会計年度は、アルファフレーム部門においては、「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材「アルファフレーム」の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。これにより、一般顧客向けの販売が好調に推移し、特に「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用した案件の売上が大きく伸びました。また、F P D製造設備関連企業及び半導体製造設備業界からの受注も継続して順調に推移いたしました。</p> <p>装置部門においては、引き続き当社グループの技術力を活かした質の高いF A装置の提案活動を推進いたしました。これにより、自動車部品製造企業向け設備として、洗浄装置及び検査装置を中心に継続的な受注を確保いたしました。また、F P D業界向けクリーンブース案件については、当初の予測より好調に推移し、売上が伸びました。</p> <p>商事部門におきましては、商事部門におきましては、主要顧客より安定的に工業用砥石、油脂類等の消耗品関係の受注を確保いたしました。また、機械設備関係では、複数の主要顧客より大口案件を受注し、売上が大幅に伸びました。</p> <p>これらの結果、売上高は9,260百万円（前期比14.5%増）となりました。</p>
<p style="text-align: center;"><b>売 上 総 利 益</b></p>	<p>当連結会計年度は、受注増に対し、立山事業所やアルファフレーム北関東の開設による増産体制を確保できたことから、売上総利益は2,261百万円（前期比12.2%増）と伸びました。</p>
<p style="text-align: center;"><b>販売費及び一般管理費</b></p>	<p>販売費及び一般管理費につきましても、受注増に対応すべく、継続的かつ効果的な人的投資及び販促・広告活動を推進した結果、1,232百万円（前期比4.2%増）と微増いたしました。</p>
<p style="text-align: center;"><b>営 業 利 益</b> <b>親会社株主に帰属する</b> <b>当期純利益</b></p>	<p>当連結会計年度は、売上高の伸長と効率的な生産体制により、各利益も伸長し、営業利益が1,028百万円（前期比23.5%増）、経常利益が1,032百万円（前期比23.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益が695百万円（前期比26.1%増）と大幅な増益となりました。</p>



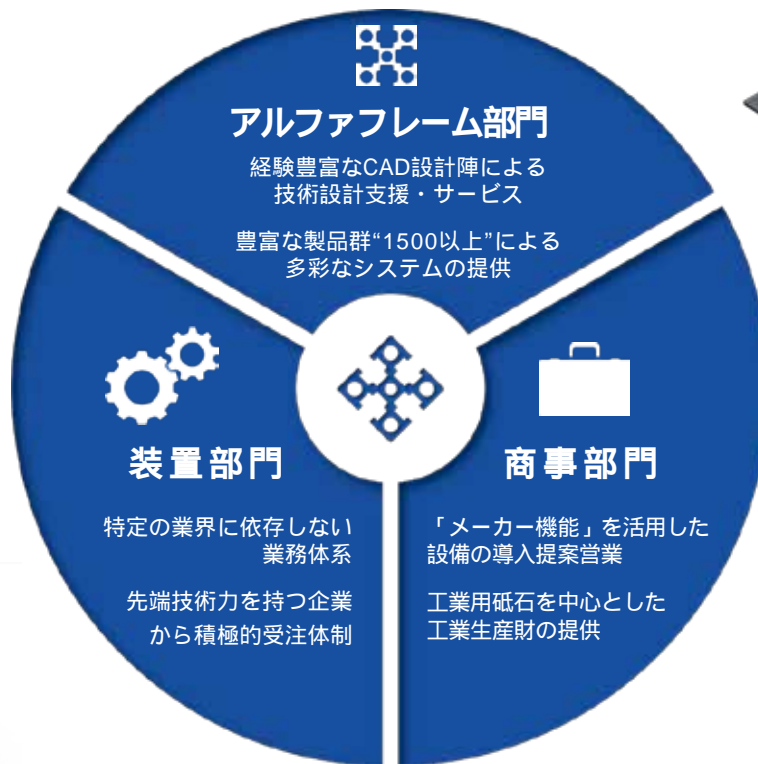
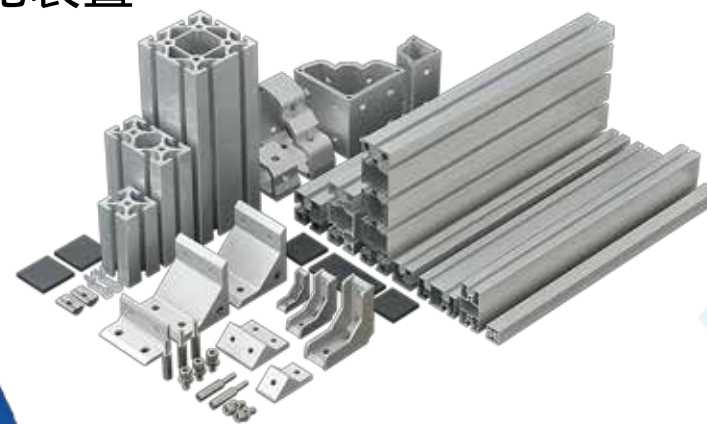
## エヌアイシ・オートテック株式会社

創 業	1927年4月（昭和2年）
設 立	1971年5月17日（昭和46年）
代 表 者	代表取締役会長CEO 西川 浩司
本 社 所 在 地	富山県富山市流杉255番地
東 京 本 社	東京都江東区有明三丁目7番26号有明フロンティアビルB棟11階
資 本 金	156,100千円（2018年3月31日現在）
従 業 員 数	連結223名/単体214名（2018年3月31日現在）
平 均 年 齢	単体38.6歳（2018年3月31日現在）





アルミ製構造部材から高度な自動化装置  
さらにはクリーンルームの  
製造・販売までの一貫体制



アルファフレーム + 装置 + 商事

高付加価値技術

### 富山本社/流杉工場

富山県富山市流杉255



### 立山工場/開発センター

富山県中新川郡  
立山町塚越398-176



### 立山事業所

富山県中新川郡  
立山町前沢2178-1



### アルファフレーム九州

福岡県大牟田市  
四箇新町1-2



### アルファフレーム北関東

埼玉県児玉郡  
神川町元阿保309



### 東京本社(登記上東京支店)

東京都江東区有明3-7-26  
有明フロンティアビルB棟11階



### 愛知事業所

愛知県名古屋市  
緑区鳴海町母呂後185



### アルファフレーム関西

大阪府東大阪市  
本庄西2-4-29



2016年度から2020年度までの5カ年を期間とする中長期経営計画として、その最終連結会計年度における売上高・事業の規模を倍增する計画。

<p>第 弾 海外子会社への増資 2016年8月</p>	<p>今後、自動化の波が高まることが予測されるASEAN地域に対し、NICAutotec (Thailand)Co.,Ltd.をハブとして、事業展開を図る。</p>
<p>第 弾 立山事業所の新設 2017年7月</p>	<p>今後も益々グローバルに事業を展開するお客様のニーズにお応えするため、開発のスピードアップと製造能力の大幅な増強として、立山事業所を新設。FA装置（FA：Factory Automation/「自動化・省力化装置」をいう。）等の設計・製作を主体としてスタートし、装置事業の重要な拠点とする予定。2017年7月中旬より稼働開始。</p>
<p>第 弾 北関東出荷センターの開設 2017年7月</p>	<p>益々高まるアルファフレームシステムをお客様のお手元へいち早くお届けできるよう出荷センター（名称：アルファフレーム北関東）を開設しました。本出荷センターは、関東を中心とした東日本のお客様へのサービス向上、及び海外のお客様からのニーズにも迅速にお応えできる体制構築の一環として2017年7月初旬より稼働開始。</p>
<p>第 弾 富山本社移転 2018年3月</p>	<p>管理部門と生産部門の更なる連携強化による業務効率化を図るべく、2018年3月に流杉工場へ移転。</p>
<p>第 弾 更なる設備投資 2018年 月</p>	<p>世界的な好景気を背景に各種製造機械の需要は増加 販売強化・生産強化を図る。</p>

## □ 海外子会社への増資 将来を見据え、ASEAN地域への展開を図る

今後、自動化の波が高まることが予測されるASEAN地域に対し、NIC Autotec(Thailand)Co.,Ltd.をハブとして、事業展開を図る。



## □ 立山事業所・ アルファフレーム北関東 □ 順調に稼働中

立山事業所 (写真左)  
2017年6月竣工、7月より稼働開始

アルファフレーム北関東 (写真右)  
2017年6月開設、7月より稼働開始



## □ 富山本社、 流杉工場へ移転で、連携強化

富山本社/流杉工場  
2018年3月 富山本社を流杉工場へ移転





## 人型ロボットを活用したシステムインテグレーション

生産工場の自動化は、これまで多くの方策が実施されてきましたが、今後はその延長線上での改善では大きな効果を見込むことができないところまできております。

そこで、仕組みのイノベーションとしてIoTの動きが出ており、人と自動化装置の間の柵を取り払った生産管理システムが注目され始めており、具体的には、人共存型の双腕ロボットの活用が高まっていくことが見込まれております。

人とロボットが一緒に働く近未来的な生産現場（次世代工場）の環境づくりとして、制御プログラムの構築やロボット作業環境として必要な周辺機器・治具、及びこれらの目的に沿った新しいFA装置や『アルファフレームシステム』を活用したユニット化等の開発に注力してまいります。



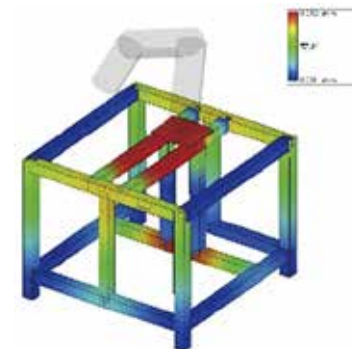
作業指示書をもとに、ナット及びナットホルダーの整列作業を行う双腕ロボット

## 性能と利便性を両立した装置メーカーの『小型ロボット専用アルミ架台』

従来の産業用ロボット架台の課題を克服した「アルミ製ロボット架台」を規格化し、新たな商品としてラインアップいたしました。安全性はもちろんのこと、スチール同等の強度と剛性を確保した最適設計で、高速ロボットの性能を確実に支えます。

用途に合わせた規格品「アルファ・キット」

**ALFA Kit** — ロボットシリーズ —  
AK-R-Series



従来の構造解析に加え、ロボット稼働状態での振動測定（加速度、振動数）を行い、スチール同等の強度と剛性を確保した最適設計。

協働ロボット7kg専用架台  
AK-R-FK07



幅	1,000mm
奥行	990mm
高さ	830mm
重量	156kg

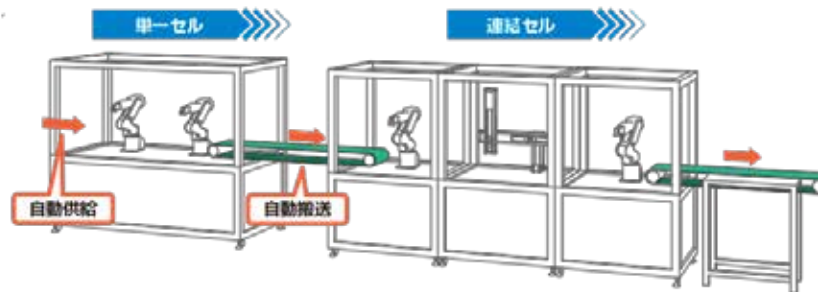
垂直多関節ロボット  
7kg以下用架台  
AK-R-FC07



幅	990mm
奥行	990mm
高さ	1,800mm
重量	136kg



標準カバーと一体化し、単独セルからセル同士のライン連結などミニロボットによる自動化生産ラインの工程レイアウトが自在に行えます。



# Thank You !

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。  
 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

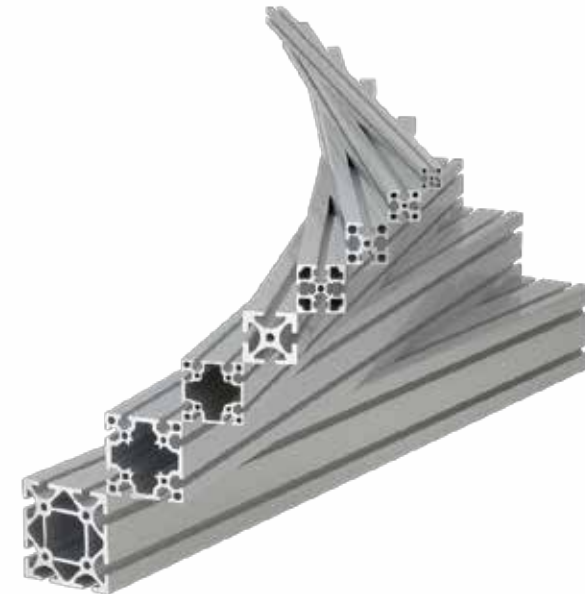
本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本資料に対するお問合せは、以下へお願い申し上げます。

< エヌアイシ・オートテック株式会社 管理部管理グループ >

TEL : 076-425-0738 FAX : 076-422-2712

Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp) URL : <http://www.nic-inc.co.jp/>



## エヌアイシ・オートテック株式会社

富山本社 / 流杉工場	〒930-0034 富山県富山市流杉255	TEL : 076-425-0738
東京本社	〒135-0063 東京都江東区有明3-7-26 有明フロンティアビルB棟11F	TEL : 03-5530-8060

**ご注意** 著作権 © NIC AUTOTEC, INC .

**WARNING** : All Rights Reserved . Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

本資料を権利者の許諾なく無断複製、改変、頒布、翻訳などに使用することは、著作権上、禁じられています。

**産業財産権** NIC AUTOTEC, INC . ALFA CLEAN BOOTH & SYSTEM, ALFA FRAME SYSTEMの主要な構成部品は特許、実用新案、意匠権など産業財産権により保護されております。